朝日新聞（夕刊）　新聞定価 月ぎめ 3,925円(本体価格 3,738円、消費税 187円)、1部売り(税込み)朝刊 1.10円、夕刊 50円　第3種郵便物認可

1　4版
主なニュース
11　模擬患者がお医者さん特訓中

模擬患者が「治療」中

お医者さん、問診上手になってね

福岡の研究会 九州に各支部 練習台に市民ら

医療情報の公開やインフォームド・コンセント（説明責任）の考えが進むなか、医師が患者の気持ちや立場を把握して対応できるよう、練習台となって医師に問診力をつけてもらおうという試みが広がっている。福岡市でも研究会が発足してから十カ月を越えた。二月からは佐賀、長崎、熊本、宮崎の各市に支部を置き、大学や病院と協力して研修を重ねている。

一月末、福岡県飯塚市にある麻生飯塚病院の会議室。黒岩かをるさん(五一)は、転換性障害（ヒステリー）で倒れて救急外来に運ばれた患者を演じた。

病院の研修医十数人が黒岩さんを囲んだ。

ぐったりとソファに横たわり、か細い声でポツリポツリと医師の問い掛けに答える。

症状は、夫との口論が引き金で現れ、背景に冷えた夫婦仲があるという設定だ。ただ、医師たちはこの設定を知らない。

終了後、黒岩さんたちが感想を話し、医師側も自分の見立てや判断を公表する。最後に、設定された病名や家族状況、検査結果が明かされる。

この試みは「模擬患者（SP＝Simulated Patient）」活動と呼ばれる。

黒岩さんが代表を務める福岡市の「九州山口SP研究会」は昨年四月にできた。東京の「東京SP研究会」、大阪の「ささえあい医療人権センターCOML」に次いで全国で三番目の組織だ。

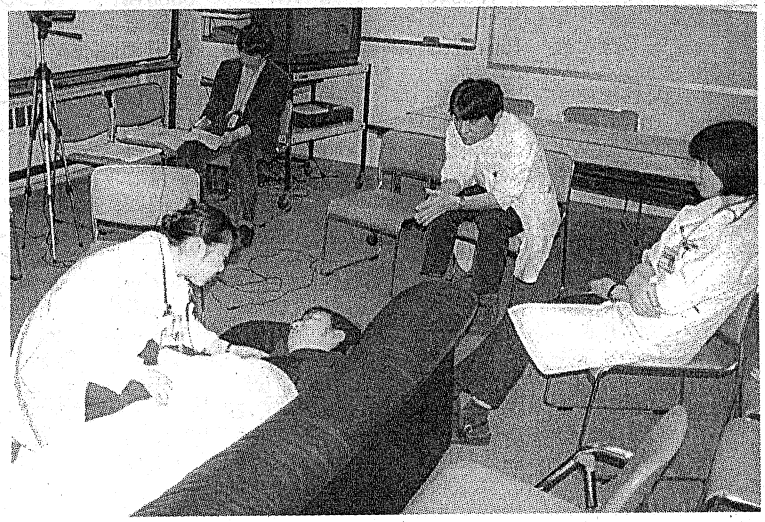
黒岩さんは難病のベーチェット病の経験者。治療中は医師と意思疎通がうまくいかず、病院を何回も変えた経験があり、活動に取り組むきっかけになった。

九州山口SP研究会のメンバーは、専門学校生、医師、カウンセラー、元助産婦ら約二十五人。これまで九州大、久留米大、福岡大、宮崎医科大や、各病院、看護学校などを回って来た。

麻生飯塚病院でSP研修が始まったのは昨年夏から。井村洋・総合診療科部長は、若い医師たちに「患者の状況を正確につかみ、安心させることの大切さを知って欲しかった」と言う。参加した轟木敦子医師(三六)は「はっきり感想を言ってくれるSPは貴重」と話した。

SP側にも学ぶ点は多い。女性の介護職員(三一)は「医師と向き合う患者の心理状態から、自分が接しているお年寄りの気持ちがより分かるようになった」と言う。

こうした活動を受けて、厚生省は、医師国家試験にSPが参加する客観的臨床能力試験（OSCE）を取り入れる方向だ。文部省も「コミュニケーション力をアップする訓練を促進する必要がある」（医学教育課）として専門家でつくる研究会で医学教育への導入を検討している。



若い医師たちが見守る中、模擬患者としてソファに横たわり、問診を受ける黒岩かをるさん＝福岡県飯塚市の麻生飯塚病院で